

12月6日のウクライナ情報

安齋育郎

●2006年に既にあった米国のウクライナのNATO加盟目標(2022年11月23日)

元フランス外務省事務局長で、2002～7年までシラク大統領の顧問を務めたモーリス・グルドー＝モンターニュ氏が、ウ問題の深刻さが以前から欧州各国政府に認識されていたことについて語った。

2006年、シラクの代理としてモスクワでロシア大統領補佐官プリホチコと会談し、ロシアとNATO諸国が共同でウクライナを保護し、中立的地位を保証する計画を提案した。

ロシアは、クリミアとロシア海軍の問題がなくなるということでこの提案に関心を持った。シラクもこの計画を気に入っていた。

シラクは氏に米国と話し合うように指示した。

そして、当時の国務長官ライスに会い計画の概要を説明した。

するとライスはこう言った。

「フランスは崩壊した。あなたはすでに何年も前から、中欧諸国のNATO加盟の第一波を阻止してきた。第二の波を阻止させるつもりはない」。

氏は「このことから、米国人の最終目標はウクライナのNATO加盟であると理解した」と語った。



●スカラ座のムソルグスキーのオペラ上演(2022年11月23日)

イタリアのミラノのスカラ座では、ウクライナ領事による公演中止の要請があったものの、ロシアの作曲家ムソルグスキーのオペラ『ボリス・ゴドゥノフ』が同歌劇場の新シーズンの幕開けを飾ることになった。

芸術監督のドミニク・マイヤー氏は、「ここには反ウクライナに向けられるようなものは何もない。我々は本物の傑作について話しているのだ」と述べた上で、『ボリス・ゴドゥノフ』はロシアの「プロパガンダ」とは何の関係もないと強調した。



●ザポロージャ原発への激しい攻撃(2022年11月21日)

Jano66ロシア情報



ウクライナ軍がザポロージャ原発に激しい砲撃 – RT & MoD

2日連続でザポロージャ原発への砲撃を記録。

19日：11発の大砲を原発へ発射

20日：9:15～9:45、12発の大砲が発射されうち8発が第5発電機と第2特殊ビルの間で爆発。第4、第5発電機の間で3発爆発、残り1発が第2特殊ビルの屋根で爆発。

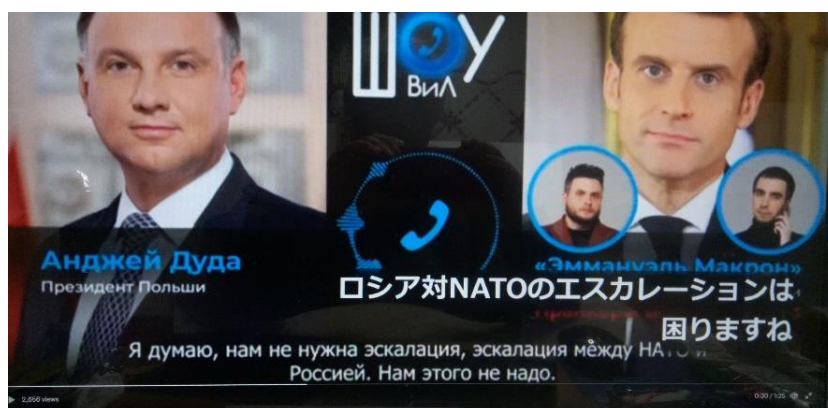
放射能レベルはノーマルだが、ウクライナの原発への攻撃はロスアトムとIAEAで明確にする、とロシア国防省。

IAEAのグロッシ氏は「誰がやっているのか、とにかく今すぐ止めなさい。何度も言ってきたように、非常に危険な事だ！」

●ポーランド大統領、なりすまし電話に騙される(再送、2022年11月22日)

ボバンとレクススがマクロンになりすましてミサイル攻撃直後のポーランドのドゥダ大統領と話します！ロシアと戦争にならないように細心の注意を払っているらしいです

<https://twitter.com/i/status/1595048300717441024> 日本語字幕あり



●なぜロシア軍はヘルソンから撤退したのか？:ダグラス・マクレガー大佐の見解
(2022年11月11日) 日本語字幕あり

<https://www.youtube.com/watch?v=ON6p1N1ZPYI>

重要



●【ロシア報復】発電所・送電システム大打撃…その中で☒垣間見える停戦合意の予兆
(藤井巖喜のワールド・フォーキャスト、2022年11月)

<https://youtu.be/wMLJ9ZiiW0>



※安齋注:参考にして下さい。

●米国の将軍は、ロシアに勝つためのウクライナの能力を疑っている(2022年11月)

<https://youtu.be/axS5JdOyxiA>



●米国、ウクライナのクリミア攻撃を認める「自衛」と指摘(ポリティコ、2022年8月20日)

米国は、自国がウクライナに供給した武器がクリミア攻撃に使用される可能性を認めた。米国はクリミア攻撃をウクライナの自衛のためと解釈している。某米政府高官はこうした立場を米紙ポリティコからの取材の中で表明した。

米紙ポリティコは、対談記事の中で米政府高官の声明を引用した。

「我々(米国)は標的を選ばない。もちろん、我々が提供したものは全てウクライナが自衛するためのものだ。ウクライナ領内で選択された標的はいかなるものであれ、定義上、自衛である。クリミアはウクライナだ」

11月17日、ウクライナのオレクシイ・レズニコフ国防相は、「ボイス・オブ・アメリカ(VOA、ロシアでは外国エージェントに指定)のインタビューに対し、ウクライナは米国が提供する武器でクリミアを攻撃する可能性を排除していないと語った。

クリミアは2014年3月に実施された住民投票の結果、クリミアの有権者の96.77%およびセヴァストポリの住民の95.6%がロシアへの再編入を望んだため、ロシアの構成体となった。一方でウクライナは未だにクリミアを自国の領土と主張しつづけており、現在の状態を一時的な占領と位置付けている。これに対してロシア指導部は、クリミア住民の実施した住民投票は民主的手段でかつ国際法および国連憲章に完全な形でのっており、ロシアへの再編入は投票で選び取られたという立場を何度も繰り返してきた。プーチン大統領は、クリミア問題は「完全に解決済」と指摘している。

ロシアは以前、ウクライナへの兵器供給をめぐり、米国を含むすべての国に外交文書を送付した。ロシア外務省のラブロフ外相は、ウクライナに対する支援物資はいずれもロシア側にとって正当な攻撃目標になると牽制した。ロシア大統領府のパスコフ報道官も同じくコメントを発表し、ウクライナに西側から兵器を供与することは停戦交渉の助けとはならず、否定的な効果をもたらすに過ぎないと評価していた。



●今後30年間、ウクライナはNATOに加盟しないことをプーチン氏に保証した=独シュルツ首相(2022年8月22日)

ドイツのシュルツ首相は、ウクライナで特殊軍事作戦を行う前に、ロシアのプーチン大統領に対して、今後30年の間にウクライナがNATOに加盟することはないと保証したと述べた。

公開日の一部として首相との会談で、ベルリン在住のある女性が、ドイツがウクライナ情勢の悪化を防

ぐ機会を逃したことについて質問した。女性は、ウクライナでの特別作戦の開始の前に、ロシアの安全保障上の必要性が考慮されなかった理由、そしてロシアとの対話を維持する機会を逃した理由、またショルツ氏が自身の役割を果たさなかった理由について首相に尋ねた。

女性は「たとえば、ウクライナのような非常に腐敗した国の NATO および EU 加盟など誰も計画していないことを明確に説明することができたはずだと思う。平和的な解決策を見つける機会を逃したと思う」と語った。これにショルツ氏はその見解には賛成できないと述べ、ウクライナでのロシアの特別作戦は「開始の 1 年か 2 年前」に計画されていたと語った。

「私はプーチン大統領と話した。ウクライナの NATO への加盟は議題にないと明確に話した。また私はプーチン氏との共同記者会見の後、改めて『今後 30 年間、ウクライナの NATO への加盟は議題にない』と話した」と語った。

これより前、ショルツ氏は、ウクライナの復興には数十億の資金が必要となり、「マーシャル・プラン」の規模を超えるとの見方を示した。



●コサチェフは、ウクライナへの軍事援助についての彼の言葉についてストルテンベルグを批判した(2022年11月22日)

モスクワ、11月22日—RIA ノーボスチ。NATO 事務総長イェンス・ストルテンベルグを含む西側の取りつかれた政治家が、平和への願望とウクライナへの武器の供給は多方向で相互に排他的な行動であることを理解する時が来たと、連邦評議会のコンスタンチン・コサチェフ副議長は述べた。

「西側の強迫観念の政治家は、平和と流血の終結への願望と、ウクライナに武器をさらに詰め込みたいという願望が多方向で相互に排他的な行動であることを理解する時が来ました。平和のために死者が増えることは、交渉を近づけるものではありません」とコサチェフは強調した。

彼はまた、NATO 事務総長の声明の矛盾を指摘した。したがって、ストルテンベルグによれば、平和に向けて動き始めるためには、「キエフを武器で圧倒し続ける必要がありますが、少なくともそれを使用できる人がそこにいて、より多くの人々が死ぬほど、平和的な解決策は近い」と上院議員は言った。

「さて、一般的に「ウクライナに受け入れられる」解決策については、非常に危険な留保です。NATO 諸国のますます多くの政治家や専門家は、この段落のキエフと同盟諸国の利益と目標は同一とはほど遠いと述べています。受け入れられる-またはむしろゼレンスキー個人と彼の側近(ウクライナではない)にとって重要なのは、紛争への NATO の直接の関与です。ブロックへのウクライナの即時加盟、飛

行禁止区域の創設などを通じて」と政治家は書いた。

コサチェフは、ストルテンベルグがこの論理を支持する場合、北大西洋同盟諸国の市民の利益に反して行動しているだけでなく、「現在、世界大戦と地元のナチスからの罰のどちらかを選択している」ウクライナの冒険家の非常識な論理にふけていると信じていますロシアとの妥協の場合。」

「そして、彼らは最初のシナリオではるかに快適であるようです。問題は、西側の人々がどの程度委任を与えたかです。ブリュッセル彼らを原子力との紛争に引きずり込むために？何らかの理由で、それほど重要ではない問題は投票によって解決されますが、生と死の問題は、人々が選出しなかったいくつかの反露当局者に移されました」と彼は結論付けた。

ロシアの軍事特殊作戦を背景に、米国とその NATO 同盟国はウクライナに武器を供給し続けている。モスクワは、西洋兵器の供給は紛争を長引かせるだけであり、武器による輸送はロシア軍の正当な標的になると繰り返し述べている。



●ストルテンベルグのともでも言い間違い(2022年11月22日)

11月21日に出回った NATO 事務総長ストルテンベルグの映像。

「誰もウクライナを支持してはならない。sorry sorry ロシアっ あー あー」
疲労が溜まっているようだ。

